

東レ株式会社

2021年3月期 決算説明会
質疑応答要旨

日時:2021年5月13日

説明者:代表取締役社長 日覺 昭廣

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全般>

Q. 中経の最終年度である 22 年度の利益目標達成に向けて、進捗と追加の取り組みについて教えて欲しい。

A. 昨年発表した中経では、新型コロナウイルスの影響は一過性であり、ワクチンの開発・接種等により 21 年中には新型コロナウイルスの影響がある前の状況に復帰し、22 年には当初描いた成長軌道に戻ることを前提としていた。現在の状況はほぼ想定通り進捗しており、欧米ではワクチンが今年の上期中くらい、世界的にも今年中にはワクチンが行き渡る見通しで、現在のところ中経の目標値は変える必要はないと判断している。

繊維事業では、衣料用途は引き続き一貫型ビジネスやスポーツ、カジュアル、サステナブル素材等コロナ禍においても需要が堅調な分野で積極的な拡販を図る。産業用途は、自動車用途の回復を受けて、エアバッグ用基布や人工皮革を中心に拡大していく。PP スパンボンドは、マスク需要は一服するが、本来のおむつ需要に振り向ける。

樹脂事業は、好調な透明 ABS の新設ラインがマレーシアで立ち上がったところであり、フル稼働させて拡大する需要を取り込んでいく。

フィルム事業は、半導体市場や xEV 市場の拡大から MLCC 離型フィルム、高機能 OPP フィルム、バッテリーセパレータフィルムの需要増を見込むほか、高機能包装フィルムの拡販を推進する。バッテリーセパレータフィルムは現在建設中のハンガリー工場をフル稼働にもっていく。需要が旺盛なポリプロピレンフィルムでは、Toray Plastics (America), Inc. で包装用の新鋭機を現在立ち上げていることに加え、土浦工場では、極薄のコンデンサー用フィルムを今年中に立ち上げる計画であり、フル稼働を目指す。

電子情報材料事業では、有機 EL 関連材料や半導体・電子部品材料等で拡大する需要をしっかりと取り込んでいく。

炭素繊維複合材料事業は、昨年から徹底的なコスト削減を実施しているが、併せて産業用途の圧力容器等で拡販を図り、ラージトウはメキシコでの増設設備が立ち上がる。スポーツ用途も拡販を実施し、構造改革・収益拡大をしっかりと成果に結びつけていく。

水処理・環境事業は、RO 膜は、昨年稼働を開始した韓国の設備と今年稼働開始予定の中国の佛山、サウジアラビアをフル稼働にもっていけると考えている。エアフィルターは、中国の新增設マシンを稼働させ、旺盛な需要に対応していく。

このような需要が伸びている市場に向け、タイムリーに増産し供給することから、22 年度の利益目標は、大きなジャンプではあるが達成できるのではないかと考えている。

但し、懸念点としては、新型コロナウイルスの影響で大きく変わった市場がある。繊維ではドレスシャツ用途の需要が減少しており、炭素繊維においてはワクチンの接種状況が航空機の国際線の需要の戻りに影響する。それらに対する挽回策に各本部で鋭意取り組んでいるところである。

<繊維>

Q. 繊維セグメントの 21 年度見通しについて教えて欲しい。

A. 20 年度の下期は米国の寒波により原料のフォースマジュールが出たことで、稼働の低下や原料調達への影響があった。そのような特殊要因が 21 年度にはなくなることで、確実に増益を達成できると考えている。

エアバッグ用基布は原料の制約もなくなりつつあり、また、自動車関連の市場が戻ってきているため、エアバッグ用基布や人工皮革等はかなりの需要の回復を見込んでいる。PP スパンボンドは 20 年度にマスクの特需があったが、その分は紙おむつ向けに供給するため、トータルとして売上はほとんど変わらないと見ている。

衣料用途は、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスをしっかりと拡大していく。サス

テナブル素材等を投入し拡大することを織り込んでいる。

<機能化成品>

Q. 機能化成品セグメントの21年度見通しについて教えて欲しい。

A. 20年度の第4四半期に、蝶理で貸倒引当金の計上があった。ABS樹脂は、20年度の需要が堅調で、かつ原料価格は下がったが、販売価格はそれ程下がらなかった。今期はそのスプレッドが若干悪化すると見ている。

Q. バッテリーセパレータフィルムの21年度見通しについて教えて欲しい。

A. 我々はEVが大きく伸びると見込み、EV用バッテリーセパレータフィルムを車載用電池のトップサプライヤーとしっかりと組んで伸ばしていこうと増産を行ってきた。車載用途は、車種毎にスペックインを行うが、20年度は顧客と共にスペックインした車種の立ち上がりが悪かった。21年度は、当社のバッテリーセパレータフィルムの採用が決まっている新規車種が立ち上がってくるため、数量は20年度比で増加すると見ている。

利益については、民生用途で得意としている薄膜や3層、あるいは特殊コーティングといった高性能な用途をしっかりと伸ばし、利益を確保していきたい。ただし、ハンガリー工場の償却費が利益のマイナス要因として影響する。

<炭素繊維複合材料>

Q. 炭素繊維複合材料セグメントの21年度見通しについて教えて欲しい。

A. 21年度上期は、20年度下期の状況が残る一方で、風力発電翼用途は拡大する見通し。21年度下期は、航空機用途は大手顧客が21年度上期並みの生産レートを維持する一方、下期には需要が若干回復し、販売も若干上向くと見ている。新型コロナウイルスの影響で需要は落ち込んだが、米国はワクチンがほぼ行き渡ってきているという状況で、21年3月時点で国内の航空旅客需要は19年の約半分まで回復しており、夏には国内便が大幅に増便する計画となっている模様である。英国も同様の傾向で、ワクチンの普及率向上に伴い、21年度下期に向けてこれらの地域では国際線も飛行再開となると見られている。このような状況が22年以降の航空機需要に影響し、21年度下期あたりから需要回復に伴う拡販が見込まれる。

また、産業用途での需要回復もあり、特に圧力容器向け、水素タンク向け等の拡販を進める。ラージトウは、Zoltekのメキシコの新系列が上期に稼働を開始することで、数量拡大に寄与する。スポーツ用途はアウトドアレジャー向けが上期・下期共に堅調に推移すると見ている。

全体として、特に下期に向けて需要拡大が見込まれる。稼働率もそれに伴い向上し、製造原価の改善がある見込み。原料価格高騰に伴い値上げも進めている。これらの全ての要素を織り込み、21年度下期は、事業利益20億円を達成する計画としている。

以上